

県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会
 金沢市尾山町10番5号
 石川県文教会館内
 電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会
 広報部

印刷 株式会社 山 越



石川県小中学校教育研究会第6回研究大会



石川県小中学校教育研究会

会長 中 克之

石川県小中学校教育研究会第
 六回研究大会の開催にあたり、
 多くの会員の皆様にお集まりい
 ただき、誠にありがとうございます。

また、石川県教育委員会、石
 川県市町教育長会をはじめ、日
 頃より本研究会の活動を支えて
 いただいております。諸機関より
 多数のご来賓の皆様にご列席い
 ただき、心より感謝申し上げます。

石川県小中学校教育研究会は、
 六年前の平成二十四年に設立さ
 れた、まだ新しい研究組織です。
 それまでは、各地域の教育研究
 会や教科等で集まる研究会がそ
 れぞれに設立され、それぞれに
 活動をしていました。これらの
 研究団体間の情報交換や調整な
 どが必要となり、研究団体を束
 ねる組織として本研究会は設立
 されました。

県内の、歴史ある教育研究会
 が一つになり、それまで培って
 きた各郡市町の教育研究会、各
 教科等の教育研究会の「授業研
 究・教育研究の文化」を、石川
 の子どもたちのために県内全域
 の教職員で共有し役立てたいと
 いう諸先輩方の強い思いからの
 発足であったと聞いております。

本研究会、通称「学教研」は、
 各地域で活動する郡市研究会と、
 県全体などの、より広い範囲で
 活動する教科等研究会で構成さ
 れています。その研究会の数は
 郡市研究会が十六、教科等研究
 会が二十四です。学教研事務局
 については、あまり知られては
 いませんが、構成団体である郡
 市研究会および教科等研究会よ

り役員を選出いただき運営され
 ています。設立より七年目を迎
 え、学教研の存在自体は周知さ
 れつつあります。課題として、
 歴史ある既存研究会の集合体で
 ある学教研は、ゆるやかな統合
 を模索しながらも、教科等研究
 会の大会開催地調整には、困難
 が多く見られます。設立をもつ
 て学教研の目的が達成されたの
 ではなく、研究の深まりと県下
 への広がりがさらに進み、今後
 とも持続発展が可能な教育研究
 会となれるよう、会員の皆さま
 と課題を共有して、知恵を出し
 合い、改善に向けて動きたいと
 思います。どうか、さらなるご理
 解とご協力をお願いいたします。

今年度の研究大会は、設立以
 来掲げてまいりましたテーマ
 「石川の授業研究文化の継承と
 発展」のもと、午前には、各郡
 市研究会の代表が会して、それ
 ぞれの地域での研究活動につい
 て報告し意見交流を行いました。
 午後には教科等研究会が研究
 成果を分科会で発表し、研究協議
 を行いました。校種や教科、取り
 組んでおられる領域にとらわれ
 ず、広い範囲の教育実践に触れ
 交流して、視野を広げるとともに、
 今後のより柔軟な発想にもとづ
 く授業づくりや授業改善に生か
 していただければと思います。

この研究大会が、地域と教科
 の枠を超え、学教研の会員とし
 て「チーム石川、オール石川」
 を強く意識いただき、石川県の
 授業研究の文化の継承とさらなる
 発展のために意義ある大会と
 なることを願っています。

祝辞

石川県教育委員会
教育長 田中新太郎

本日、「石川県小中学校教育研究会第六回研究大会」が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

本日お集まりの皆様には、日頃より、本県の学校教育の充実や児童生徒の健やかな成長に向けた取組へのご協力ならびに、その積極的な推進にご尽力いただき、感謝申し上げます。

すでにご承知のとおりですが、二〇二〇年度から新学習指導要領が全面実施になります。現在は新学習指導要領へのスムーズな移行に向け、各学校では、着実に準備が進められていることと思っております。

県といたしましては、昨年度、管理職等及び全教員を対象とした教育課程説明会を開催し、新学習指導要領の説明を行い、さらに、その内容を深く理解してもらうために、各学校へ説明DVDを配布しております。

また、平成二十七年年度から平成二十九年度まで実施した能動的学習推進事業で開発した優れた指導法を集約した映像資料を作成し、配布する予定であります。ぜひ、校内研修等で活用していただき、教員の授業力向上を図っていただきたいと思います。

さて、新学習指導要領には、外国語教育の充実、プログラミング教育を含めた情報教育の充実をはじめ、多くの改訂ポイントが含まれています。これら教

育内容の改善事項の対応には、本研究会の活動は大変重要なものとなります。

今回、六回目の研究大会を開催するにあたり、各地域の教育研究団体等との幅広い交流を通して、これまで以上に充実した活発な研究協議をお願いします。

最後になりますが、本研究大会の開催にあたり、ご尽力下さいました関係の皆様に対し、深く感謝を申し上げますとともに、本大会での成果が、小中学校教育のさらなる充実、発展に生かされますことを、心よりご期待申し上げます、お祝いの言葉いたします。

祝辞

石川県市町教育委員会連合会
会長 野口 弘

本日ここに、石川県小中学校教育研究会第六回研究大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本研究会は、県内で教職に携わっておられる皆様方の、様々な要望に応えるために、各地域や市町ごとにあつた研究団体や研究会を、一本化して誕生しました。これにより、全県的な視野に立った研究が推進され、現在までに着実に成果を積み重ねてきています。本研究会の設立に携わった者の一人として、心から嬉しく思っています。

さて、本大会のテーマである「石川の授業研究文化の継承と発展」には、私たち教師がこれまで大切にしてきた「指導力」や「指導技術」といった「教師」としての財産を、次の世代

へ確実に継承し、発展させていくという強い思いが込められていると思っております。

ところで、ここ数年、教員の大量退職による大幅な世代交代が進む中、若手教員が急激に増えています。こうした若手教員の指導力をどう磨き上げ、質をどう高めていくかが、大変重要な課題となっております。

そのような状況の中、いよいよ新学習指導要領の完全実施に向けた取り組みが始まっています。例えば、小学校では、今年度と来年度の移行期間において、円滑な移行ができるように、先行実施できるものは、積極的にどんどん進めるところです。

「特別の教科 道徳」、三・四年の「外国語活動」、五・六年の「外国語科」、指導内容が追加される「算数・数学、理科」、さらに小学校段階における「プログラミング教育」など、この移行期間中にやるべきことは、たくさんあります。

私たち教師は、これからの学習指導の方向性にしつかり目を向けることが必要です。そして、それぞれの状況の中で、新しい見方や考え方に対応しながら、一人一人が自らの指導力を、より一層高めていくことが大切です。

ぜひ、オール石川という大きな輪の中で、本研究会の活動を通して、幅広い角度から効果的な研修を深められ、石川県の教員全体のレベルアップを図っていただきたいと思います。あわせて、本研究会で学んだことが、それぞれの市町に広がり、県内全ての学校で有効に活かさ

郡市町教育研究会
協議会報告

白山市立美川小学校
櫻井ゆかり

れ、深まり、発展していくことを切に願っています。結びに、本研究会の益々の発展と、本日ご参会の皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠にありがとうございました。どうぞごさいませ。

県内十六郡市町教育研究会の代表者が集まり、活動報告の提案と研究協議が行われた。

活動報告の提案

①河北郡市町教育研究会

かほく市・津幡町・内灘町の小中学校で構成され、会員数は六百名を超える。十三の事業部会があり、各部会が計画的に活動している。そのうちの小・中学校教育課程研究会では各教科部会に全会員が所属し、学校間を越えて教職員の授業力向上に貢献している。また、校長が部長を務め随時校長会で課題を報告し協議することで、各取組の情報共有している。課題としては、三つの市町でもそれぞれに重複した研究会があり見直していくことが必要である。今後の会員数の減少も視野に入れながら、効率的な運営方法や効果的な研修の在り方を考えていくことが求められている。

②羽咋市教育研究会

小中合同の教科部会と特別教育部会があり、教科部会には全会員がいずれかの部会に、特別教育部会には各校から代表会員

が所属し、授業力・指導力の向上、小中連携の共通理解に努めている。その他の特徴的な活動として、教職員研究物の奨励がある。検討委員会を組織し、個人研究や学校研究に関わる研究物を募集し、検討・評価し成果を広めている。また、指導案をデータベース化し各校へ配布することも効果的である。

課題としては、研究物の奨励に関わる業務の負担が大きく、研究成果を共有化する効率的な仕組みを検討していく必要がある。会員数の減少に伴う組織の在り方も検討していく。

全体協議

働き方改革が喫緊の課題である中で会員数の減少を踏まえ、効果的で効率的な研究会の組織運営の再構築と人材育成が求められている。

グループ協議

「郡市町教育研究会の運営の工夫」というテーマで熱心な協議が行われた。

会員数の減少については、部会の数や業務内容を整理し教育効果を考えた改善を行うことが必要である。と同時に少人数であっても充実した研修となる運営方法や、若手育成に役立つ研修内容の工夫が大切である。

県大会がある場合の人員の確保において数年前から計画的に会員数を調整し臨んでいる事例や、名簿作成等に関わる業務効率化の具体的な工夫なども話し合わせ、各郡市町での取組を共有することができた。

学教研という県全体の組織であればこそその有意義な協議の時間であった。

記念講演

「コーチングによる人材育成」

京都造形芸術大学 副学長 本間 正人

1 学習学の基本の考え方

教育学は学校の先生のための学問である。学習学は全ての人を対象に行われる。人間は生まれてから死ぬまで学び続ける存在（ホモデイスケンス）である。学校教育の期間は長い人生の中でわずかである。私は最終学歴の最終という言葉に違和感を感じる。本当に学び終わりでいいのか。その後の人生の中で最新学習歴を更新し続けることが大事である。学校は学び終わりの場所ではなく一生涯び続ける力の基礎をつける場所であればならない。学習学の古典の最たるものは論語である。論語の一番最初に「学びて時に之を習ふ。亦説（よろこ）ばしからずや。朋有り、遠方より来たる。亦樂しからずや」という文がある。学習することは喜ばしい。人と出会いは楽しい。学習の原点である。脳には記憶中枢の海馬と感情中枢の扁桃体がある。喜怒哀楽の感情が打ち震えると扁桃体が作動し脳内神経伝達物質がしみ出てくる。そうすると学習したことが長期記憶として定着しやすくなる。感情を伴う学習は長期記憶として定着しやすい。

2 変わりゆく教師の役割

ティーチングは教え込むこと、これも大事です。しかしティー

チングは加速度的にeラーニングにとって代わられている。eラーニングとはコンピュータ、スマホ、ゲーム機を使って自分の時間に自分のペースで知識を獲得する学習のことである。最新の情報は教科書では教えられない。教科書が全国に出回るまでに三年かかる。今は、国際政治、世界経済、科学技術は三年でコロコロ変わっていくので先生方の最終学習歴を更新していかないといけない。eラーニングがどんどん進出してくると学校の先生の役割が変わってくる。その役割とは、コーチングとファシリテーションである。

3 コーチングとは

コーチングは一人一人が持っている可能性や自発性を引き出すことである。これは機械にはなかなかできない。一対他で学び合いをサポートしコミュニケーションとか社会性の涵養のようなものは一人でできない。学校という場があつてはじめてできる。学び合い・チームワーク・コミュニケーションの具体的なスキル・スポーツ・合唱・合奏そういうものがこれから大事になっていく。それではどうやって引き出すのか。一番重要なのは傾聴である。

4 傾聴のスキル

コミュニケーションというと

話をしている人にスポットライトがあたる印象がある。話をすることはマイペースでできる。聞くことはマイペースでできない。男性は聞くことが苦手という説がある。男性と女性ではコミュニケーションに求めている要求がちがうという説を作者アラン・ピーズさんが唱えている。女性は共感欲求である。アクティブリスニングの三要素「あいづち・うなずき・くりかえし」

男性がこれを実践すると世の中まるく収まる。ところが男性にはなかなかこれができない。男性がコミュニケーションに求めているものは有能性の証明欲求である。戦国時代など戦いに明け暮れているときには有能性の尺度は戦闘能力であった。平和な社会において有能性は問題解決能力である。問題解決能力はAIが進化してとって代わっていく。すると二十一世紀は教育も変わっていく。0から1を生み出す創造力、人間関係力、感動して発見する力。これらは人間ならではの力である。うなずいてもらえないと言葉が出てくる。自分の言葉に自信がなくなる。うなずくことは相手の言葉・気持ちを引き出す効果がある。コーチングは引き出すことにウエイトがある。アクティブリスニングは相手の話をサポートす



る積極的で能動的なエネルギーの注ぎ方である。コミュニケーションは聴く側のインシアチブが極めて重要である。話をする人は、見られている、ちゃんと聞いてもらっていると感じると自己肯定感が高まる。

5 質問のスキル

コーチングで二番目に大切なのは質問のスキルである。人間には質問力が潜在的についている。小さな子どもは教わったことでもないのに「これ何?、これどうするの?」と言葉を覚えたらすぐ質問文を作ることができ。すごい能力である。やつぱり人間は学習する存在（ホモデイスケンス）で言葉をさらに学習するために使う。大人になるとその質問力を手控える傾向がある。学習意欲を高めることが教育者の大いなる役割である。学校の先生は全ての教科が満点だと最高だと思いかもしれない。しかし人間は得意不得意があつてかまわない。得意なものがないものがない。人間関係について学校教育の中でどれだけやっているか。人間関係はコミュニケーションをとって初めてできる。心と心が通い合うコミュニケーション、これが人間関係をつくる。心と心がつながりやすくする一番簡単な方法がヒーローインタビューだと思ふ。ぜひ試してほしい。関係ができたから自己開示するところまで至ることもある。全ての人がある人なりにつかヒーローになる可能性を持っている。これを引き出していくのがコーチ

ングである。松下幸之助氏は人間を育てるポイントとして「人間というものは磨けば光るダイヤモンドの原石のようなものである」と言っていた。原石のダイヤモンドを磨き輝かせることができる物質はダイヤモンドである。もし人間がダイヤモンドの原石であれば、そこに磨きをかけその内側から輝きを引き出してくれるのは人間であり、人間どうしのコミュニケーションである。中国の古典詩経にある有名な四字熟語「切磋琢磨」は元々石の話だったが、人と人とが関わり合いお互い刺激し合いお互いに学び合うという意味になった。教育者の役割は、切磋琢磨し、学び続ける学習者のお手本になることである。



6 承認のスキル「ほめ活かし、ほめ育ての三箇条」

①事実をほめる。特に細かい事実をほめる。自分をよく見ていてくれるという信頼感と安心感が伝わる。いいところ探しをする、これを美点凝視という。②タイムリングよくほめる。③心をこめてほめる。先生方もヒーローインタビューやお互いを承認し合う機会をつくってみたい。先生方のエネルギーが上がつて自己肯定感がないと子どもをほめるエネルギーに回らない。ぜひ、チャレンジしていただきたい。

教科等別研究協議会報告

第一分科会

特別支援(特別支援教育研究会
石川県立いしかわ特別支援学校
宮島麻衣教諭)

「生活単元学習のあり方」新しい単元の展開」を研究主題として実践報告がなされた。文化祭で出店する「カラオケやさん」に向けて、カラオケ曲の動画を制作する過程で、iPadのiMovieのアプリを活用した。その利点(撮影後、すぐに映像を確認し、何度でも修正・編集ができる)を大いに活かし児童は大変意欲的に活動することができた。今後さらに多方面のテーマに活かすことのできる発展性のある単元であった。

国語科(石川県国語の会 金沢市立馬場小学校 山崎小奈美教諭)

「子どもとつくる国語科の授業」を研究主題として実践報告がなされた。研究の視点は①言語活動の充実②深まりのある授業にするための教師の手立てである。

①の成果は、児童の実態と付けた力をより意識した指導ができたことなどが挙げられた。②の成果は、思考や根拠を確認する問い返しや考えを深める発問を考えて授業に臨めたことなどが挙げられた。課題として、効果的な関わり方の工夫や構造的な板書の工夫などが挙げられた。



第二分科会

養護(養護教育研究会 金沢市立大徳小学校 大西芳恵養護教諭)

「養護教諭の資質向上を目指して」研究活動を充実させ、養護教諭全体のレベルアップをめざす」を研究主題として、実践報告がなされた。内容は、①研究支援事業(アドバイザーの活用)による会員の資質向上及び地区や自主研修の充実を図る取組②つなぐカードを活用した会員相互の力量形成③全体調査を行い地区別の研究についての情報共有による研究推進の三点であった。実践により、養護教諭相互の情報共有や力量向上につながり、有効的な取組であったことが示された。

特別支援(金沢市立中央小学校 芳齋分枝 荒木弥生子教諭)

「言語発達に遅れのある児童のための気持ちを表す語彙の獲得に向けた学習プロセスの工夫」を研究主題として、実践報告がなされた。①実践のパッケージ化②獲得させたい語彙の選定③児童の関心を引きつける題材の選定④感想を伝えるための語彙選択を助ける教具の工夫⑤語彙の獲得につなげるICTの活用の五つの視点を大切にしながら実践であった。作品づくりを通して「おもしろい」「たのしい」等の感情を共有することにより、互いの気持ちを知る経験や語彙の獲得につながった。児童の興味関心を引き出す工夫がたく



さんあり効果的な実践であった。

第三分科会
生活科(金沢市立戸板小学校 順教寺文代教諭)

「子どもが創る生活科」かわり合う中から気付く子をめざして」を研究主題として実践発表がなされた。実践は二年生の「町たんけん」の単元で①気付きの質を高めるために意図的・計画的で組織的な単元計画を行う②気付きの質を高めるために子どもが学び合いを促進する③個に応じた支援と評価を工夫するの三つの視点からの実践であった。体験と表現の繰り返しや学習成果の視覚化・共有化個に応じた支援などの様々な手立てにより、子ども達のより質の高い気付きや、学びへの意欲の高まりを伺うことができた。

事務(公立小中学校教育事務研究会 金沢市立医王山小中学校 小山直之事務主査)

「従事する」から「つかさどる」に変わったことをふまえて、今後のように学校運営に参画していくのか。「共同学校事務室」の導入により事務機能を強化し、学校の様々な問題を、解決すべき学校全体の課題と認識し、課題解決策を事務職員が中心となり、具体的な計画の立案・実行をすすめる



題の解決をはかる。また将来的には、コミュニティ・スクールについて事務局の立場として支援していくことも検討していく必要があるとの発表であった。

第四分科会

国語科(石川県国語教育研究会 輪島市立鳳至小学校 上野芳江主幹教諭 穴水町立穴水中学校 田尻あさき教諭)

「伝え合う力を育てる国語の授業をめざして」を研究主題とし、小・中学校それぞれの実践報告がなされた。

小学校では、「ゴールイメージとねらい達成に向けた指導を明確にした授業」の実践として、①学習の見通し②色別のサイドラインや付箋の活用③鑑賞文④シートの作成⑤交流の工夫の五つの手立てを用いた授業の具体的な取組について紹介された。

中学校では、「付けたい力の確実な定着と見直し・振り返りの充実を図った授業」の実践として、授業の中での「展開」部分で、個人やグループで考える場面を大切にしながら取組の報告がなされた。



小・中学校共に、ゴールイメージを児童生徒と共有することで、より主体的な活動につながったこと、また、交流の場における「三角ロジック」を用いた表現・説明の充実により、「根拠や筋道を明確にすること」を意識づけることができたという成果が挙げられた。

養護(金沢市立小坂小学校 竹俣由美子養護教諭)

「類回保健室を利用する子どもを援助する養護教諭の専門性とその力量形成」についての実践報告がなされた。

概要からの一般的な事例検討、五分程度の対応場面を抽出した事例検討、解決思考ブリーフセラピーの考え方の短時間での事例検討を行った。その結果、養護教諭には、子どもを取り巻く情報をまとめ、事例全体を見立てる力や、担任を孤立させないためにショートミーティングで組織をコーディネートする力、保健室を利用する子どもを引きつけ、対応する力が必要であると考えられた。また、組織的な対応策や、事例検討の在り方について協議された。

編集後記

第六回研究会でも成功裡に終わりました。午前の郡市町教育研究会協議会では市代表として報告しました。多くの研究会が会員数の減少により、組織の見直しや運営の工夫が必要だと感じていることが分かりました。午後の本間先生のご講演は参加型だったので、時間の経つのが早く感じました。傾聴・質問・承認の基本スキルを磨き、コーチングによる人材育成に今後とも努めたいものです。また人間は「学習する存在」だからこそ、「最終学歴」ではなく「最新学習歴」を更新し続ける「学び手」でありたいと思えました。会報の発刊にご協力いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。

(広報部 竹内 弘司)